

事業所名		放課後等デイサービスみのり2			公表日	令和8年 3月 31日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		バリアフリー環境ではないが、職員間で配慮、情報共有、伝達することで適切を目指している。	バリアフリー化は改善中だが、環境上の配慮(情報伝達等)は適切に行われている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	1	各研修へ参加しスタッフの向上ができるように努める。日々取り組んでいる療育を保護者の方に伝えるように工夫をして子ども達の成長している様子を知ってもらうようにする。	しっかりと目標設定を明確にして、PDCAを進めていきたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		利用者の障がいの理解、その対応について等勉強会を設け療育の質向上に努めている。	社内研修は実施。子どもたちの障がいや日々の成長について情報を共有し今後の課題を考える。又、個別に外部研修を受講している。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		常時、子どもたちの情報を共有し対応するよう努めている。	今後もさらに子どもたちの情報を共有し、良い方向・成長を目指して努めていきたい。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6			

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	6			
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6			
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
関係機関や保護者との連携	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6		お隣が放課後児童クラブということもあり、イベントを通じて交流がさかんである。	今後も交流を進めていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	4	協議会の参加は今後行いたい。	協議会の参加は今後行いたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	6			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		日ごろから連絡帳や送迎時、保護者とのコミュニケーションは出来ているので、面談という機会が増えるともっと良い。	今後さらに個別面談やコミュニケーションを行ってきたい。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	1	5	感染対策も踏まえて保護者会ではなく、個人面談を行っている。	個人面談で対応していく（3月に実施）
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6			
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			

非常時等の対応	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	てんかん発作時の対応等、明確にし即時に対応できるよう保護者、学校等と情報を共有し勉強会を開いて備えている。	子どもたちの様子や服薬の有無を職員間で共有し、保護者、学校とも情報共有し連携をとっていく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスみのり2		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 19日		2025年 12月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	2025年 11月 19日		2025年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちの可能性を見出し、個々の長所を伸ばしながら将来の自立を支援する。同事業所に就労A型事業所・就労B型事業所・グループホームがあるため、方向性を親御様と話し合い作業体験を組み込みながら将来必要となる力を養うことができる。	自立に向けてのステップアップ支援。毎月マンネリ化しない支援プログラムを作成し、毎日の活動時間を通じて具体的な生活スキル、状況に応じたコミュニケーション能力、集団行動、他人とのかかわり方など子どもたちと向き合い取り組む。	各研修へ参加しスタッフの向上ができるように努める。日々取り組んでいる療育を保護者の方に伝えるように工夫をして子ども達の成長している様子を知ってもらうようにする。
2	近隣の公園や他児童クラブといった地域資源を活用し、地域の方々との交流や清掃活動などを継続的に行っている。これらの活動は子どもたちが社会性や公共心を育む機会になり、支援内容の更なる充実を図っていくことが期待される。	季節行事や日々の活動を通して他児童クラブや地域の方々との関わる機会を設けており、行事への準備、制作へも参加してもらいイベントや行事を通じて交流の幅を広げ将来に向けて、社会性や協調性を育めるように取り組んでいる。	他事業所や地域との連携をさらに深めコミュニケーション力向上を目指し、交流に機会を増やすことで、子どもたちの経験の幅、社会性を広げていく。
3	言語訓練に取り組んでいます。言語聴覚士のもと自由に参加していただいています。発語がうまくできない、発音がはっきりしない等だけでなくコミュニケーション力、作文力、語彙力、表現力、発想力などに取り組んでいます。	言語訓練により、発言力等が生まれてきました。自分の気持ちを言葉にして発言できることが増えてきており、今後継続することで子どもたちのコミュニケーション力の成長が楽しみです。	言語訓練に継続的な参加を促していきたいです。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	利用者の障がいの理解、その対応について等勉強会を設け療育の質向上に努めている。
1	全職員がみんなで協力をして企画を考え、支援内容の発展や新しいことへの挑戦していきたい。保護者へ取り組んでいる工夫、地域交流に参加している様子など保護者の方にあまり伝わっていないことがわかりました。今後、積極的に連絡帳だけでなく理解していただけるようにしたいです。	適度に事業所内で研修の内容を深め知識や支援方法などをしっかり学び取り組んで、新しい発見、成長へつなげていく。	一人ひとりの個性を尊重し認めその成長を理解して療育に取り組んでいき職員のレベルアップをしていく。
2	更に職員間での情報共有や支援方法の統一に更なる工夫が必要だと感じる。	職員間で情報共有、課題への取り組み等を更に進めていきたい。そのために社内研修、自己研鑽などに取り組み職員のレベルアップに努めていきたい。	担当者会議の充実を図り、記録し、PDCAを行い、ミーティング、日々の申し送りをして情報共有を行い、支援内容の統一や質の向上を図っていく。